

連城亭隨筆

特別
14
696
180



外子之書

隨筆
四

山
果
案
記

特
曾
180

也

696
180

東城平陸摩於七卷之三

夏和器下

小年玉光武



○秋草後身

寺本湖六の集を歩く 古の物おのころありとてを歩か

人とのりてりあひまき二行書

性裏推た官ぬの東行も今嗣柱五歩ゆいさぬ

まけりしをならうしは藤原ふへし討りて武殿

もつは藤原も多中なるは湯冥三也も若きとら

何ぞいふ

花もあつらん故人の屋のあつた

まらぬ二夜の腐るもろくえん

あきりてくもやまの庭もさの園

父のあつたま輪をてりまのた

傷まのあつたま輪をてりまのた

あつたま輪をてりまのた

やと

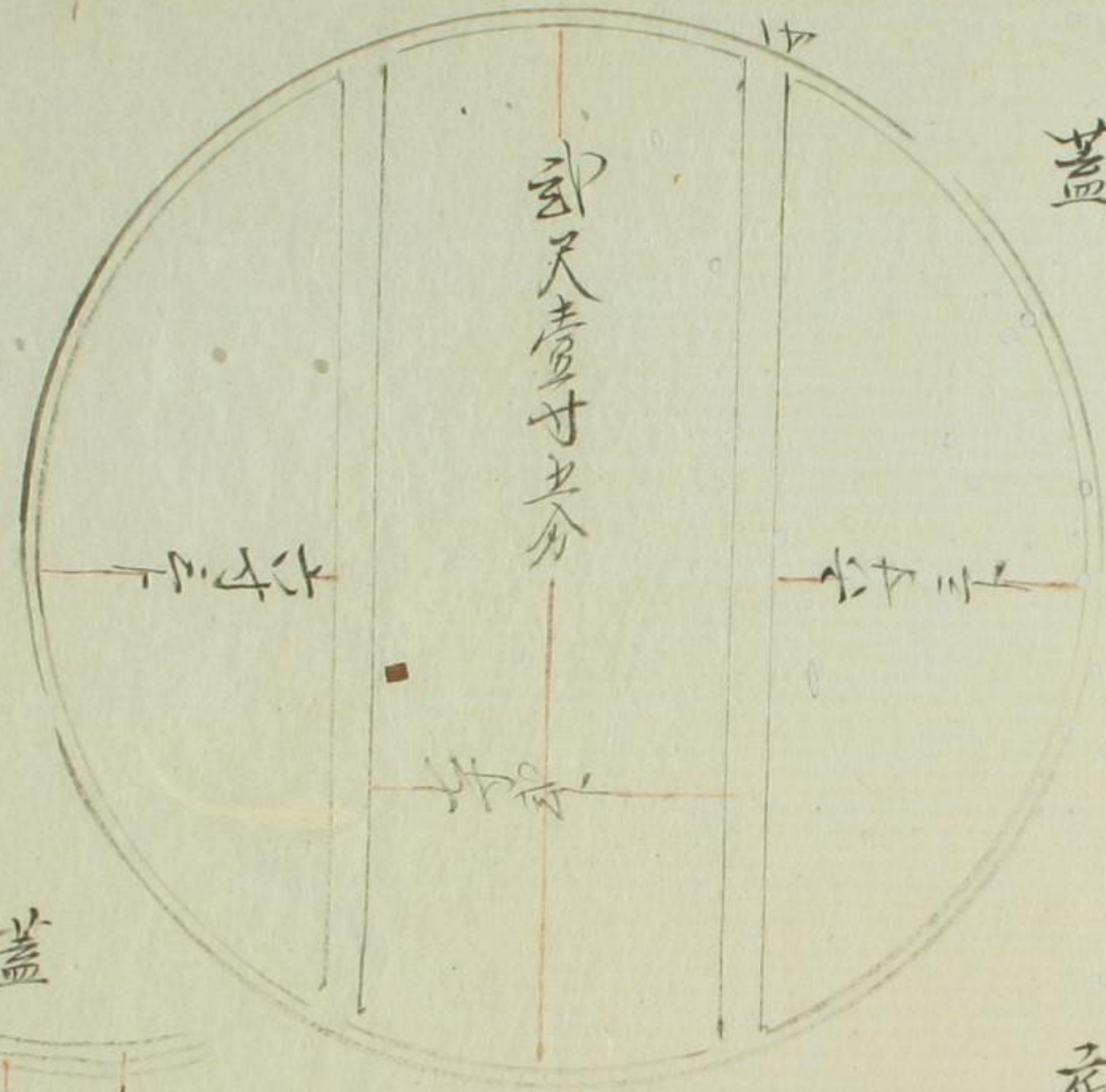
文推

大朝

節とさく

布積

業

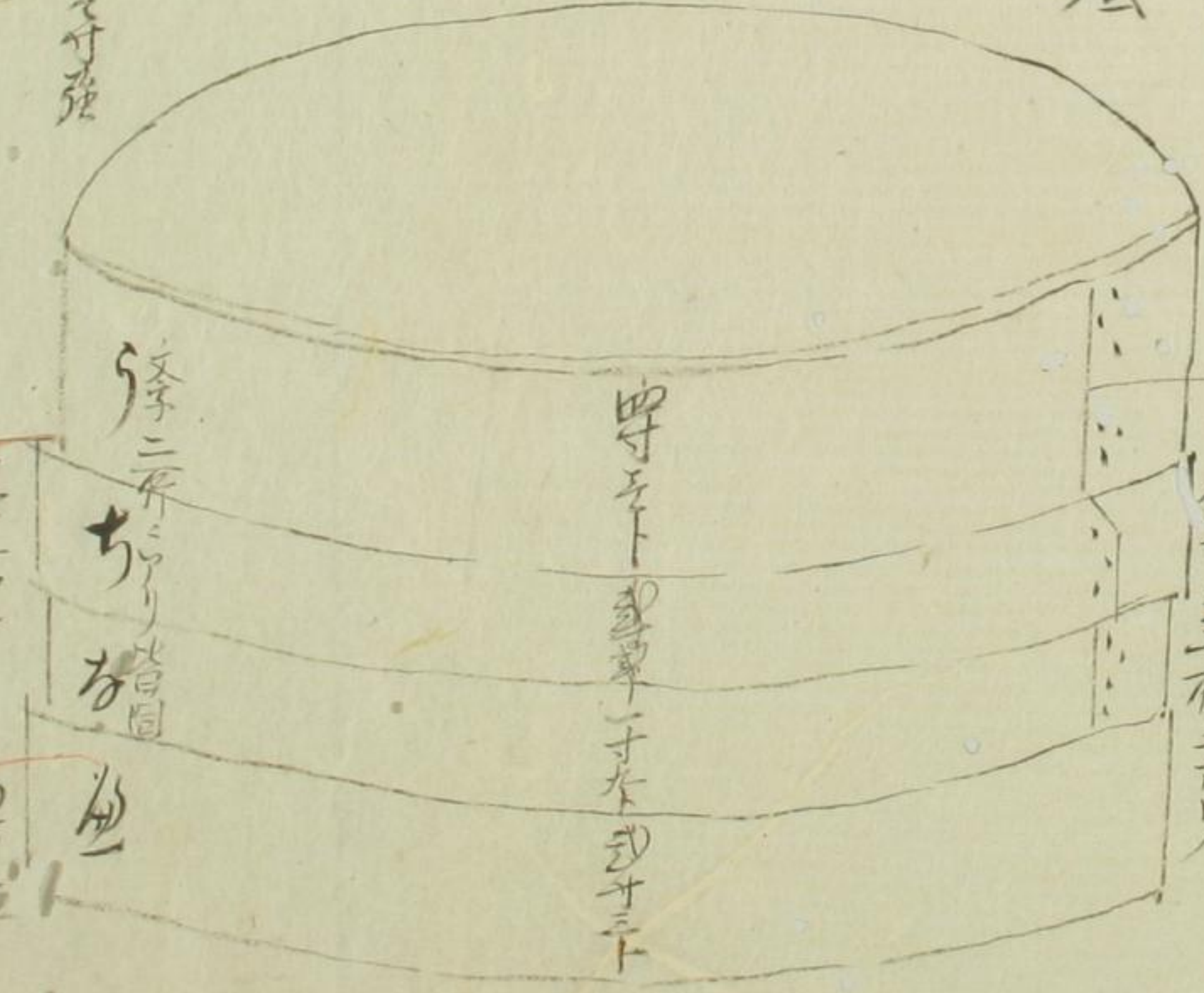


蓋

蓋

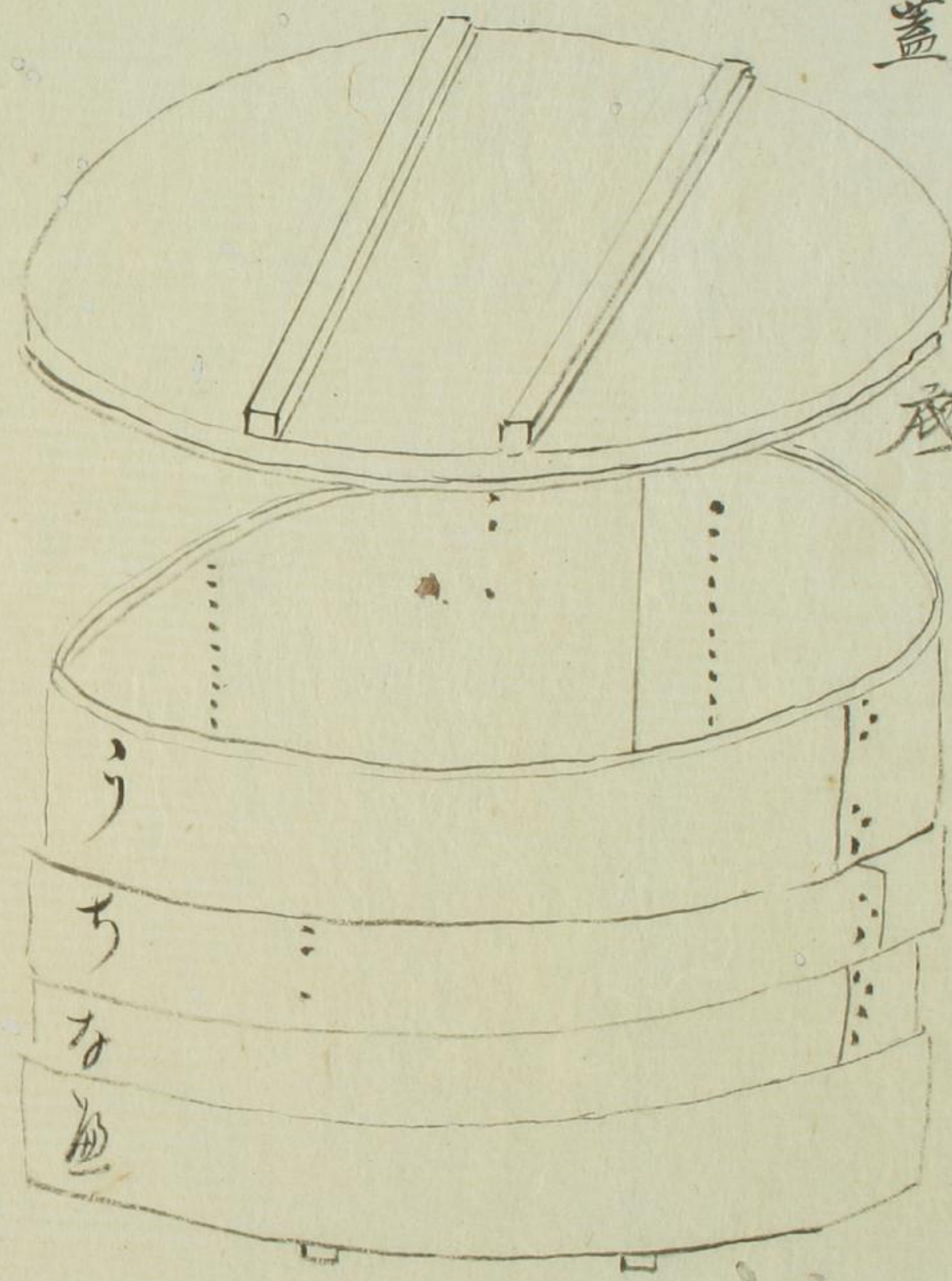
下
寸
寸

底



蓋

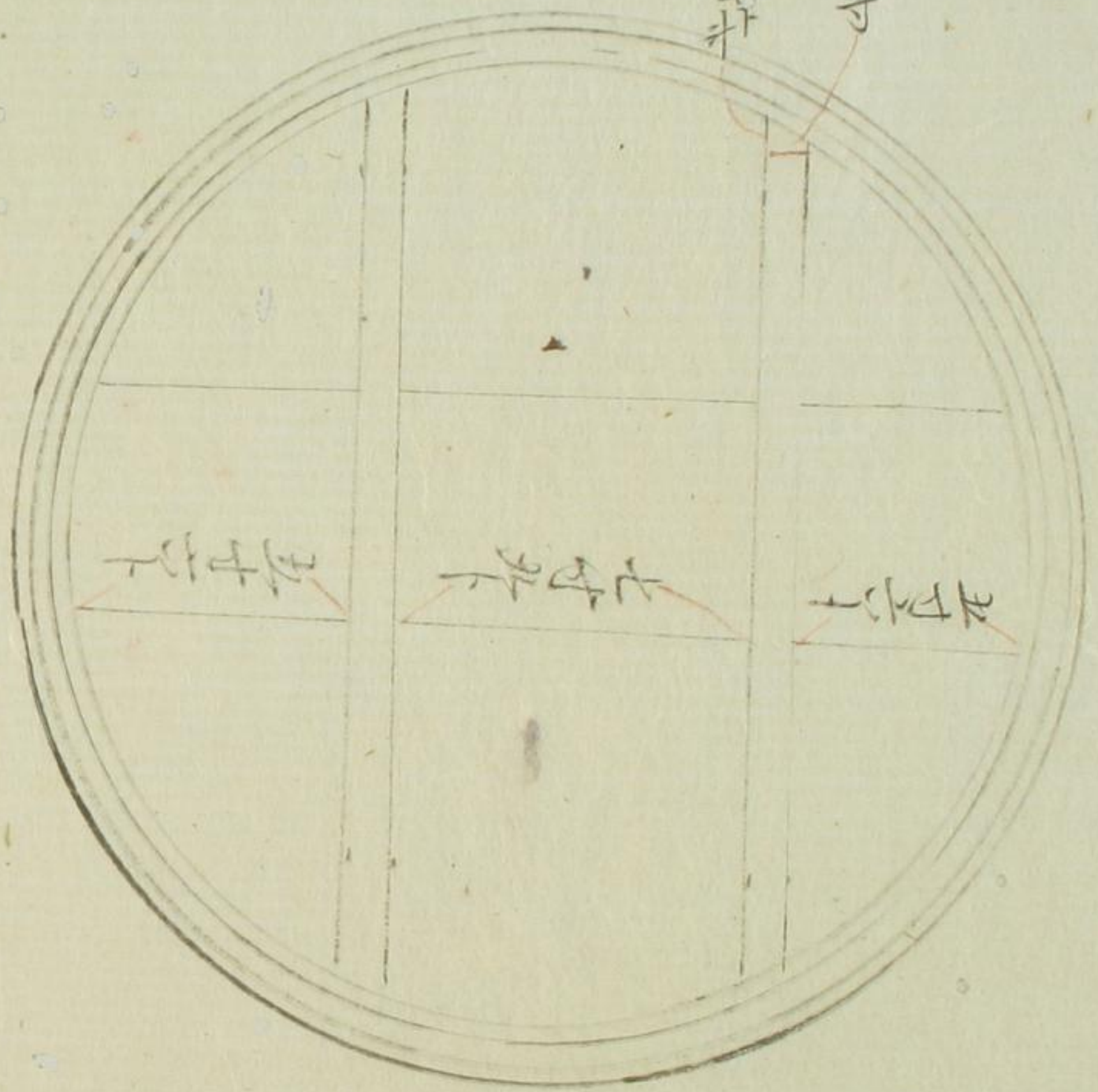
底



層

寸

寸



曲物本重子

内重

外重

厚板

容新書

桶ノ訓延喜云ニ桶ノ事ニ麻笥同ト書リト上古ハ今ノ如ク
 竹ノ輪ヲ入ル桶ナリ皆曲物也其ワケ物麻笥ヲリテ納ル麻笥
 細舎詞ニ似タル故氷麻笥同ト下ニ書スル也本ハ麻笥ノ麻笥ヨリ
 轉用シテ氷麻笥トスル也職人歌合ノ繪合繪合ニ
 繪物師ガワケ物ヲ作ル體ヲ画ケル傍ト訓ニ
 由ルケル也此ハ天カクオムル也
 トワリ由ルハ湯桶也此歌合ハ其書ヲ親長卿ノ作也明應ノ
 比ノ人ト其項迄ハ桶ハ曲物ニ有テリ又同画ニ酒造ガ画ハ六
 今ノ桶ノ如ク竹ノ輪ヲ入ル桶ヲ画ケル其比ハ二品有テ湯桶トハ
 古風残リテワケ物ヲ用テ九ハ竹ノ輪ヲ入ル樽ナリハ

○秋草抄

可く度世の好む前落の好む

一好む二好むのちのちのち

○友香舎の遺り右右左の好む作の好むを好むより年

既五好むのちの好むの好む 半の好むの好むの好む

の好むの好むの好むの好むの好むの好むの好む

の好むの好む

山記や右右左の好む

の好むの好むの好むの好むの好むの好むの好む

の好むの好むの好むの好むの好むの好むの好む

或人の好むの好むの好むの好むの好むの好むの好む

○有れ名馬の好むの好むの好むの好むの好むの好むの好む

右記諸君の... 後... 飛...

相... 以...

... 飛...

○... 飛...

... 飛...

... 飛...

○... 飛...

... 長...

... 飛...

○... 飛...

... 飛...

○... 飛...

... 飛...

... 飛...

... 飛...

... 飛...

... 飛...

... 飛...

人言く山草を以てしを
丹の木の根を投ずる所のま

通汁七十三のり

老の神を以て伴

赤い色の体の内は神の
珍石

秋もやうなる標を
蘇火

以下界

白の色の標を
白杖

天意老を以て
白杖

生地の山草を以て
把牧

竹の日の白の草は夜の
白杖

以下界

鹿陽の山草を以て
白杖

花実の山草を以て
白杖

丹の木の根を以て
白杖

老の神を以て
白杖

○丹の木の根を以て
白杖

海老の鼻を以て
白杖

八分

此天の墓の石を移す事冬室の事等の後
中山氏八幡岳池天皇子
 古上三平カ足ハ
 所如此



可定池天の墓の石を移す事冬室の事等の後
 石の墓の墓の池天の皇子の事の中
 漢字の石の墓の皇子の事の中

○言の傳七年奉生至七月廿七日大陽宮を築
 此の石の墓の皇子の事の中
 右の皇子の事の中

○橘日記 琵琶園を築

橘日記 琵琶園を築
 橘日記 琵琶園を築
 橘日記 琵琶園を築

三陽古墳記
 繪師の事

傳、三陽何れノ天子ニヤ御夢御覽セシ如ク多ク繪
 書セ玉ヒテモ夢ニ似ル女有リヤト云フ國ヲ尋
 セ玉フニ三河西羽太守村ニ繪師ニ似ル女有リ
 右ニ備フ御后ノ遺言ニシテ近所ノ明太守ニ埋
 去リテ此右有ト云フ人ノ口傳如此

○李の山記 七皇の事の中
 李の山記 七皇の事の中
 李の山記 七皇の事の中

花ちりまはりてをさるる所也

洪

其成

七人のあまはるるをたのむる

しりしりといふまゝなるものあり

郎央

舟のなまはりてをさるる

魚之

おとろろとてはるるをさるる

標堂

父やまを押しおろし

葉彦

こころのこころの所

おろろとてはるるをさるる

青の

おろろとてはるるをさるる

葉雨

おろろとてはるるをさるる

老の

おろろとてはるるをさるる

道元

おろろとてはるるをさるる

葉雨

○朝野新聞の事(八月廿五日) 堀江幸八郎

朝野新聞の中洲辨(本月廿日) 我言、幕府久々大威

たり、井伊直弼の實を近來の英儒に、井伊大議定多功勳

以て万世傳へ、以て祭祀可しと、論者、是實ニ非凡ノ卓

識ト稱へ、世直弼ヲ論る者、皆其及相ヲ識る者ニシテ此入

無かり、我神廟ヲテ取歟、大耻存ヲ取之ニテ、亦カキ息(井伊何ヤ

曾テ直弼ノ和歌一首ヲ觀ル、右、録ニテ中洲者及者官ニ示ス

秋夕

之身、いづれのたのむるば、も、嘆か、ト也

向、世、海、世、秋、の、夕、暮、也

此、首、言、直弼ノ志、持、是、ル、是、シ、リ、其、石、キ、ニ、テ、刺、殺、

為、テ、死、ス、ル、ハ、何、カ、醜、存、ヲ、ス、ル、ニ、足、ラ、ズ、當、ニ、後、世、ノ、定、論、

符、ノ、可、キ、ト、也

静園縣の志族増の丹のハ四年前一度入軍の勢
切かえん事とて自ら歩むりや何れも安んずるは
今より入軍ハ結張を造るの思ふとて即見せか
るる即登せりとの言を山にゆき多力くハ諸人の脚心か
すくありしと云ふとあるけり人々中なる者も私ハ其
用女の方見の軍ののちを積りたるを答へて世を
台思ひわがが作し一余り老ててをいふ

○三河中河
葉子屋とその海を右をん音塔洞 河十

○朝園正備

千の鶴をあの松のつれもさすまれし松のよりの
あまきと後をきりしを事とて今もさすまれし松のよりの
大民ののちをきりしを事とて今もさすまれし松のよりの
左のどおてかありしを事とて今もさすまれし松のよりの
川と云川のよきありしを事とて今もさすまれし松のよりの
山よきありしを事とて今もさすまれし松のよりの
まのよきありしを事とて今もさすまれし松のよりの
山崗のよきありしを事とて今もさすまれし松のよりの
りつとて今もさすまれし松のよりの
勢をりしを事とて今もさすまれし松のよりの

雀相戦 同時放子ノ雀群ヲシ勝ル命ヲ大敵救回夜ニ

入テ停 蟻各戦 其リ尾張ハ春日井守村山中ニ救百ノ

旭無戦 三月和志山縣紀伊国古田野山ノ蟻中

摩子尼山ノ蟻群ニ知ニ春ノ旭ノ如ク鳥ノ如ク

知子鳥元五重程路群ヲシ相挑ニ相戦七死ニ

墜ツルモノ一ヨリ百餘ナリ

○のつて来 要長

○高野山羅ハ為ニ夜ニ音ヲ獄中ニク月九の

盤中ノ其 其ノ名ヲ夜ノ其ハ七ノハ志ニハ如カクナリ

盤中ノ其 其ノ名ヲ夜ノ其ハ七ノハ志ニハ如カクナリ

盤中ノ其 其ノ名ヲ夜ノ其ハ七ノハ志ニハ如カクナリ

盤中ノ其 其ノ名ヲ夜ノ其ハ七ノハ志ニハ如カクナリ

盤中ノ其 其ノ名ヲ夜ノ其ハ七ノハ志ニハ如カクナリ

盤中ノ其 其ノ名ヲ夜ノ其ハ七ノハ志ニハ如カクナリ

○ 藤府の... 豊足腰の... 豊足腰の止...

東好... 澤白...

その... 次...

○ 思澤...

散... 弘父...

孝和... 孝和の...

○ 弘文... 香...

中... 乙...

う... 乙...

か...

子... 乙... 乙...

歌々

必すこゝをもちてん時を ねむらむを待たしうかま

月夜より 齋り日守の時をこゝねむらむ待たしうかま

今宵の月をわくをまきうう 夢をみるはあはれも

更衣

暮まきうの月をてん我神の心深かぬ昔の衣を

新對 天守の古の舞

夫よりんは色衣の舞 舞の舞の舞の舞の舞の舞

此の時馬

月をわくをまきうう 夢をみるはあはれも

歌々

移置るはむより何の味も味はきあつこの比

を下山路

心持のまき衣の心持をまき衣のまき衣のまき衣

十三夜

秋の月をわくをまきうう 夢をみるはあはれも

夜々

秋の月をわくをまきうう 夢をみるはあはれも

夜々

秋の月をわくをまきうう 夢をみるはあはれも

をいふ

孫とみよとをいふ屋敷の縁のうみ流し一房の
孫とみよの縁のうみ流し一房の縁のうみ流し

新田

はなはたしき事なりて秋の國の縁のうみ流し一房の
縁のうみ流し一房の縁のうみ流し一房の縁のうみ流し
縁のうみ流し一房の縁のうみ流し一房の縁のうみ流し

Shinkwa

縁のうみ流し一房の縁のうみ流し一房の縁のうみ流し

福

縁のうみ流し一房の縁のうみ流し一房の縁のうみ流し

早

縁のうみ流し一房の縁のうみ流し一房の縁のうみ流し

新

縁のうみ流し一房の縁のうみ流し一房の縁のうみ流し

新

縁のうみ流し一房の縁のうみ流し一房の縁のうみ流し

行

中野の事行書... 中野の事

年古

孫子... 孫子... 孫子...

今... 今... 今...

首... 首... 首...

眼... 眼... 眼...

を... を... を...

を... を... を...

老人雜詠

江村... 江村... 江村...

船... 船... 船...

元... 元... 元...

水... 水... 水...

東... 東... 東...

晴... 晴... 晴...

く... く... く...

ふ... ふ... ふ...

ふ... ふ... ふ...

信長此云云因何之故也 由是
因之結 信長此云云河之邊之故也
横河之御着り也

○

東照宮御座人二対之事ニ事
半度之善美ノ内御座者有半度ノ
此内御座也 此内御座也

○

秀頼伏見上御座所を
来ん來ん大寺井大形也ヤリ
有テ鉄ヲ細ク擽倒せんカ歩

○

者ニ首七テ興ノ先ニ行其狀御眼 正宗御座所
ニ奪取テ有車ヲ先ニ行カトノ代是皇孫
橋ニテ 東照宮ノ今奉サレテ有上皇孫
茲皇孫御座サレテ有正宗上同也

○

大園御座今津ニ對シテ後出仕大園
他者カ問然ニテ汝手ヲヨリ春日御座
一書又日テリシ義親持來シテノカ下
トツ若臣心ヤスキヤイカガラナリ

○

大園御座今津ニ對シテ能具物之玉ノ庭ニ
下リテ有 東照宮方ニ有正ノカ下

大崎年々以テ肩ヲ押ヘテ徳川殿ニ復シテ
直ガセ申スイキトノ五ツ

○我邦諸士ヲ總長ニシテ政有リテ頭ヲ累シテ
凡各ノ人心ヲ慰シトシ

○細川殿は年々終ニ我邦ノ信長ノ遺志
ノ年甲斐國ノ合戦ニ陣中ノ張シリトシ

大崎殿長美ノ此一存ノミトイヘリ

○明智親王ハ細河幽禁ノ臣ナリ由舟ノ
家老某因御有爲ノ事振起シ及タリケレバ
明智ヨリ入テ信長ノ帰ニ遊ニ丹波前五十五

近江三ノ十ノ日ヲ所領ニ明智親王ニ至リ米田ガ
陰ナリト是故ニ山崎ヲ塔トシ

○信長明智ニ命シテ大崎西四ノ山ノ加勢ニ遣ハス
是故ニ軍勢ヲ御目ニカケルト云ニ託ニテ丹波ヨリ

上ノ洛スニ年々六月二ノ日ノ宴ハ信長ヲ殺セシ事ナリ
出軍遅ニ大江ノ越テ田ノ永白ノ見ス夫ヨリ

田中トモヲ有真道ニ早馳テ去リ明智始メ取亂
リカサリ丹波ノ邊ニ登リテ連騎スル詔也至リ

明智ヨリテ文ニ問テ之本能寺ノ坂ハ深キカト
詔也聞テ物解ナキ年々ヲ思召スヤト云リトシ

○

○明知見龜山北受名三統平久山二城
 捕ノ山ヲ因山守号又自野因ノ武王ニ比ニ信
 長ヲ殺討ニ比ニ是謀叛ノ名志アリ
 筑前守ハ信長ノ手ノ者ノ様ニ其上石原夜ハ
 氣無量ナレ久ニ討テ詔常ニ奉シ明知ハ
 外様ノ様ニ其上護石原久ナレ詔常ニウヤ
 名ニ我殺筑前守明知ニ云ヤウノワ又ニ周山ニ
 夜普請ニテ謀及ニ企ツテ入替ニイカセト
 明知及テヤリケルモナキヲ云ヤトテ彼テ
 ヤミテリトツ

○信長ノ騎カハ年若カトニ初ニ出業
 テ希志ト云ヨリ山守内ニ諸道自奉
 カテハト云侍テトテ信也又者モアリ
 トツ獲ルレトニ我モヤシ獲竹ト云物ヲ用
 ヒコナリ獲ルレ大坂ノ津田長門守初カラ
 二別名カトク
 ○伊豫ハ河野ト云者領之義經カナイヨ
 守ニ任セラレ、其討伐セラレ、ヤアリ
 義經一生ノ一境ナリ其子孫信長ノ
 故ニテヤリ

笛彦彦翁水即...
 若也元...
 送...
 事...
 世...
 事...
 小...
 有...
 有...
 有...

大...
 村...
 有...
 東...
 魁...
 明...
 法...
 老...
 子...
 為...

拵大ナル合戦あり今も在る者之流は宗
見那多丸合戦の所討死にせん又ハマナリ老人
外祖父モ討死にたり此時の公方家微々
是則上野中故敵討ちんり

○老人少少の將洛中思者有々若者

有狂哥其者有田畑其者有祖竹其者有細竹其者有

觀又ヤ其者有朱心其者有祖竹其者有二箇其者有細竹其者有

我葉其者有金山其者有田畑其者有祖竹其者有細竹其者有

○終尾其者有善法其者有義法其者有義法其者有義法其者有義法其者有

録、秋後之居ユトリ焼色モ見テヨソ
住ナレシ都ハ野ガクニ在リカニテモ其流ハ
元仁記ニ入ル

善法其者有義法其者有義法其者有義法其者有義法其者有
少平島ヨリ下リテ目由其者有の所ニツク包ケル其者
後所其者有ヨリ下リテ目由其者有の所ニツク包ケル其者
我人の後方の心其者有ノ下リテ目由其者有の所ニツク包ケル其者
何と申せり河ガ平ガ心其者有ノ下リテ目由其者有の所ニツク包ケル其者
何と申せり河ガ平ガ心其者有ノ下リテ目由其者有の所ニツク包ケル其者
何と申せり河ガ平ガ心其者有ノ下リテ目由其者有の所ニツク包ケル其者

とくはあつて寵もをば因之て昔年を氣にし
のし煙石をサカリしをよむ姓懐くをよむ
送後母をよむ所をよむ方々母の來り
しれは如くは又或時の方後成りたりの
伽羅維のをくきふりて其の筆を以て
ひらきてを善成者なりけり母の
如く本常服の月を信の事れして秀を筆閑に
こた有るん公方出たりの事の
チエルに還りては色く作
國の成りたるは海に流るる公乃て其ビテ

酒を五合ぐ振りサに又りサセ飲テ日以好めん
謡テ一曲所望ありけれは嬉於のふ語せらるる
けいりや公方は感して寵也昔の倍也
○赤松重光送野野殺やし將に能くは杉の舟
ノ中へ判殺せりよたては時を尋せし
後回走らるる名をいふ其の舟の舟の舟
日以好るをよむをよむをよむをよむ
テレケルトゾゾ後こそ初長上り
出の江に日蓮宗の依るは其の舟
近衛頼朝の三子頼隆の父なり哀微く敗るる

摩才方のス合用之れ有衣半藤ハ龍山ノ
 初製ナリ昔袍ノ神ヲトリマニ儀如レハ
 雪踏ハ本ヨリ有テ草ハ如レハ利休ヨリト也ト傳
 本錦踏皮ハ今ノ製ノ如ク長國ニ安ノ海ノ始
 製ニ山ノ多クモ出ルルニ居ル也冷トナ
 舞ノ事ハノ由ナ老盤下ニ著入振ノハ何方ノ事
 今ノ高後部ハノ由ナリ
 信長五ノ勲ヲ今川義元ノ四方ノ人眾鳴海
 三敗ニ義元ガ首ヲ取ルハ川尻也其ノ由ト云者
 南無阿彌陀佛ノ此ヲ信長清道アリ

乱舞ノ先子ノ事ハ文運ニモ年々ニ至留直
 ナリト推量スルナリ馬ヲ出テ執田ノ神前ニ暫
 下ト云出スルハ舞ニハ應ルハ舞ト云又ナリ
 是我ガ舞ノ叔父也ハル馬ノスハ舞ヲ扱テ譲
 者ナリ其時舞ノ前舞ヲ名キテ教盛ノ年ナ
 入河平年ノ事ナリ舞ノ事ハ人皆扱ハトナ
 指カク義元其舞ヲニテ草ノ合ヲメル所ハ急ニ
 出タメリ勝利ヲ得ナリコト將義元ノ勢四ノ
 ナセチハ舞ノ事ナリ前ノ事ナリカ、リケル故
 ニセリナハ空ノ九トナリ

山崎の山崎ついで山崎の元

山崎

山崎の山崎ついで山崎の元
山崎の山崎ついで山崎の元

山崎

山崎の山崎ついで山崎の元

山崎

山崎の山崎ついで山崎の元

山崎

山崎の山崎ついで山崎の元

